

当園ではこの度、令和5年度の幼稚園学校評価として、保護者アンケート及び、教職員自己評価・学校関係者評価を実施いたしました。教職員自己評価では、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直す非常にいい機会となりました。

今年度の保護者アンケートの結果及び、教職員自己評価の結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

<p><b>目指す園児像</b></p> <p>心身ともに明るく健康な子ども</p> <p>何事にも興味を持ち、創造性豊かな子ども</p> <p>誰とでも遊べる思いやりのある子ども</p> <p>正しい考えで行動できる子ども</p> <p><b>具体的な教育目標</b></p> <p>①基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培います。</p> <p>②人を尊重し、助け合い、すすんで他の人の幸せのために奉仕する生き方を学びます。</p> <p>③自然などと親しみ、驚きや発見などの感動を大切にし、豊かな心情や思考力の芽生えを培います。</p> <p>④言葉を交わす楽しさを知り、喜んで話したり聞いたりする態度を養います。</p>
--

II. 今年度の重点目標

<p>昨年度の学校評価で、抽出された「課題」の解決をするとともに、関目聖マリア幼稚園をより良い幼稚園にしていく為に、</p>
--

III. 評価項目と取組み状況

評価項目	取組み内容	取組み状況
1 (教育内容) 理念の浸透・目標の推進	「神様のお話」などを、月の宗教カリキュラムに基づいた形でインプットを行うことで、個々が保育にアウトプットするものに統一感を持たせる。	B 聖劇のイエス様ご生誕に向け、年間を通して少しずつ話を聞くことで、保育者も子どもたちも理解を深めていく姿があった。保育者は自身の言葉でも子どもたちに伝えられるようになってきた点良かった。お話を伝え続けられなかった月もあったため、「今月は2つくらい伝えよう」と決めるなどして継続できるよう試みる。
2 (教職員の質の向上) 組織体制の構築	職務について理解し、各々が主体的に取り組み、全体に発信できるように研鑽していく。	B 職務分担をしたことで、各自が自分の職務に取り組めるようになった。また、預かり保育では、一人ひとりが考えて意見を出し合い、改善したい点を発信しあえるようになった。誰が何の役割をしているのかを張り出しておくことでフリーの先生も声を掛けやすくなると思われる。今後は、行事や係などにマニュアルを作成し、初めて担当する職員がいてもマニュアルを見て取り組めるようにしていく。
3 (保育環境の整備) 環境を活かした保育環境の整備	今ある環境をよく知ると共に、自ら子どもにとっての最善の環境を構築したり、探究したりする。	C クラスの部屋の環境を統一し、子どもたちも手伝いができるように話し合い、少しずつ一緒に環境づくりができるようになってきた。子どもたちが遊びに集中できるように机を配置したり、マットを端に寄せるなど工夫を行った。日々の保育が始まると、ゆっくりと考察ができないため、あらかじめ季節に合わせて環境見直しの日程を組んでおくことも考えたい。また、成功した環境づくりを発表・提案したりして、全体で共有していく。

# 令和5年度 学校評価結果報告書

学校法人 大阪聖マリア学園  
関目聖マリア幼稚園

評価項目	取組み内容	取組み状況
4 (情報発信) 保護者や地域への情報発信	レーザーキッズの機能をより用いて情報発信を充実させる。 また行事や園庭開放などでアンケートを実施し、保護者や地域の方の意見も取り入れていく。	B レーザーキッズにてクラスの様子や行事を、写真や動画も使って情報発信が行えた。行事がない月は情報発信の無い月もあったため、今後は写真だけでも月に1.2度の情報発信ができると良い。 レーザーキッズのアンケート機能を用いて、子育ての悩みや見たい園内の園児の姿について希望について聴取できると良い。 園庭開放などで参加者へのアンケート実施を検討する。
5 (安全管理体制の強化) 安全管理体制の強化	危機管理などのシュミレーション園内研修を取り入れ、対応の仕方など、個々の意識を高めていく。	B 様々な災害パターンを想定し、外階段から非難したり、ひまわりルームから全員で非難するなど試みることができた。 また、避難訓練後には即座に担任間で改善点について話し合い次へと生かせるようにした。 防災、防犯やAED、交通安全など外部の講師を招いての研修により専門家の話を聞ける機会が増え知識が深まった。他にも地震などのテーマや一度学んだ内容についても定期的に継続して指導を受け、安全強化をすすめていく。

## 【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	目標の推進	経験を通して自分で考え、選び行動し、責任を持つことができる子どもの育成。その目標達成のため教職員も経験を増やし自ら考えて責任を持って喜んで行動する。
2	組織体制	担任の職務・保育の流れ・子どもの育ち等の基礎部分の確認を丁寧に行う。その中で疑問点の自己発信や意見交換をしやすい体制を整える。
3	保育環境の整備	活動に自ら取り組めるように、保育室内の環境を工夫する。園庭においては都会の中の園であるからこそ、畑での食物栽培などを通して自然を感じることができる環境を構築する。
	縦割り保育の取り組み	縦割りの担当グループを決め、年間を通して縦割り保育を計画し取り入れる。
4	情報共有	職員数が増加しているため、情報共有が最優先課題となる。様々なツールを使いながらも一人ひとりが意識をして声を掛け合いつながっていくことを強化していく。保護者や対外的には引き続きレーザーキッズを活用し、発信力を高めていく。
5	安全管理体制の強化	声の掛け合いを怠らない。日々の終礼でマニュアル類の読み合わせを行いながら、定期的に見直し、視覚化を行う。 小さなこともヒヤリハットとして受け止め記録していくことを習慣化し、個々の意識を高めていく。

V. 学校関係者の評価

自己評価・保護者アンケートを基に関係者評価を実施

<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価についての取り組み状況・達成状況は概ね適切であると評価します。特に＜教職員の質向上＞における「役割分担」や連絡方法等の取り組みが具体的に挙げられており、改善の様子が伺えます。</li> <li>長時間保育の子どもたちへのケアが今後の課題になってくると思います。</li> <li>＜保育環境の整備＞については時間が必要と思いますが、「子どもが自発的にお手伝いができる」はこの時期に欠かせないと思っております。そのための環境整備と子どもの意識を高められる事を願っております。</li> <li>コロナがら類へ移行した後も多くの感染症が発生しています。引き続き園内での感染対策や保護者への情報提供をお願いします。</li> <li>＜情報発信＞、＜安全管理体制の強化＞など幼稚園だけでなく、社会が取り組まなくてはならない課題に積極的に向き合う姿勢は高く評価できます。</li> </ul>
---